

| 科目分類  | 専門分野Ⅱ            | 開講年次・時期   | 1年次 9月～1月   |         |         |
|---|------------------|---|---|---------|---------|
| 科目名   | 成人看護学概論          | 単位数   | 1単位   | 時間数     | 30時限    |
| 担当教員  | 専任教員             | 講義時間  | 28時限  | 試験時間・配点 | 2時限 90点 |
| <b>◆科目目的</b><br>成人各期の特徴と成人保健の動向、健康に影響する諸因子を学び、健康の保持・増進に向けた看護の役割を理解する。   |                  |   |   |         |         |
| <b>◆科目目標</b><br>1. 成人看護の意義と役割を理解する。<br>2. 成人各期の特徴を、身体的・精神的・社会的側面と発達課題から総合的に理解する。<br>3. 健康に影響を及ぼす諸因子について理解する。<br>4. 成人保健の動向を理解する。<br>5. 成人各期における健康上の諸問題と、疾病予防、健康の保持・増進に向けた看護の役割を理解する。<br>6. 成人の特性や能力に応じた看護アプローチの基本を学ぶ。 |                  |   |   |         |         |
| 回   | 主題               | 授業内容  | 授業方法・使用教材・課題  |         |         |
| 1回  | I. 成人看護学の意義と役割   | 1. 成人看護学とは<br>2. 成人看護学の構成と位置づけ<br>3. 成人看護学の理念と目的<br>4. 成人看護学の対象<br>5. シラバスの説明   | <講義形式><br>・シラバス<br>・成人看護学援助論Ⅰ～Ⅳマトリックス   |         |         |
| 1<br>2<br>3回  | II. 成人期にある人の特徴   | 1. 対象の理解<br>1) ライフサイクルから見た成人期と成人期の区分<br>2) 生涯発達について<br>3) 発達段階と発達課題<br>4) 成人各期の発達段階の特徴と発達課題<br>(1) 青年期(大人になること)<br>(2) 壮年期・中年期(大人であること)<br>2. 対象の生活<br>1) 生活を営むこと<br>2) 仕事を持ち、働くこと<br>3) ワークライフバランス                             | <講義形式><br>・テキスト①<br>内容1. p4～p28<br>内容2. p28～p40<br>・資料配布<br><br>2. 2)について<br><レポート提出><br>働いて生活を営む成人期にある人の現状について、様々なデータからレポートをまとめる。<br>詳細は後日 提出 月 日( ) |         |         |
| 4回  | III. 成人の生活の特徴    | 1. 成人を取り巻く環境(人口・経済・環境問題)<br>2. 成人のライフスタイルの特徴<br>1) ライフスタイルや働き方の特徴と広がり<br>① 晩婚化・未婚化、少子化<br>② 女性の就業     ③ 高齢者の就労<br>2) 日常の暮らしの特徴と多様性<br>① 休養・睡眠     ⑤ 肥満とやせ<br>② 運動習慣     ⑥ 喫煙<br>③ 食生活の特徴     ⑦ 飲酒<br>④ 肥満とやせ     ⑧ ソーシャルメディアと依存 | <講義形式><br>・テキスト① p42～p54<br>・テキスト② p _____<br>・資料配布   |         |         |
| 5回  | IV. 健康指標に見る成人の特徴 | 1. 人口構成<br>2. 平均寿命と死亡の動向<br>3. 健康格差<br>3. 職業性疾病・業務上疾病<br>4. 受療状況<br>5. 生活習慣病<br>6. メンタルヘルスと自殺者数   | <講義形式><br>・テキスト① p54～p63<br>・テキスト② p _____<br>★p62～63の事例を読み考察する   |         |         |

|  |                        |  |  |
|--|------------------------|--|--|
| 6回   | V. 成人の健康上の課題           | 1. 成人と死<br>2. ストレスと健康<br>1)健康バランスの構成要素と健康バランスに影響を及ぼす因子<br>2)ストレスとは<br>①セリエの生物学的ストレス<br>②ストレス因子に対する適応の過程  | <講義形式><br>・内容1 テキスト① p250～p263<br>・内容2 テキスト① p170～p177<br>・資料配布  |
| 7<br>8<br>12<br>13<br>14回  | VI. 成人の健康を保持・増進するための活動 | 1. 成人にとっての健康の意義<br>2. 生活と健康を守り育むシステム<br>1)保健・医療・福祉にかかわる施策の概要<br>2)家庭・地域社会における成人の健康生活を育む活動<br>3. 生活行動から見た健康生活の脅かし<br>～「健康日本 21(第2次)」で示された、生活習慣や生活習慣病の10領域より～  | <講義形式><br>・内容1 テキスト① p64～p85<br>・テキスト①p152～p168<br>・資料配布<br><br><3. グループワーク><br>健康生活を脅かす様々な要因と実態を知り、生活習慣病の予防に向けたアプローチに必要な基礎的知識を学ぶ。 |
| 9<br>10<br>11回   | VII. 成人看護に有用な概念・理論     | 1. 学習者としての成人の特徴<br>アンドラゴジー(成人教育学)<br>2. 成人看護で活用される概念・理論<br>1)ストレスコーピング理論<br>2)危機理論<br>3)エンパワメント<br>4)自己効力理論  | <講義形式><br>・内容1 テキスト①p91～p92<br>・内容2 テキスト①<br>1) p174～、p328～p332<br>2) p200～p208<br>3) p222～p223、p274～280<br>4) p228～p230、p281～p292 |
|  |                        | *急性期、回復期、慢性期、終末期など様々な状態にある患者を看護するうえで、『倫理』や『意思決定支援』は重要キーワードとなります。9回目の講義前に、予習として必ずp127～p142を一読して下さい。また、副読本「よくわかる看護者の倫理綱領」も、9回目講義前までに一通り読んでおくこと。成人概論のみならず、今後看護に携わるうえで重要な内容が記述されています。上記の概念・理論を説明する際に、倫理や意思決定の考えも含めてお話します。<br>*講義後は、テキスト内の事例を読み、自分なりに分析・解釈して概念・理論について理解を深めましょう。 |  |
| 15回  |                        | 全講義終了後 筆記試験  |  |
| ◆担当教員より一言<br>*本科目は、成人看護学という大人を対象にした看護の基盤となる考え方や理論、援助論の概要を学ぶものです。これらを学ぶことで、成人看護学援助論、成人看護学実習へと発展させていきます。<br>*本科目は、成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学、精神看護学、在宅看護論、臨床看護学総論、健康教育技法、労働と健康、行動科学、メンタルヘルスマネジメント、公衆衛生学との関連があります。<br>*教科書6章以降の内容は、本科目の中で部分的に触れますが、詳しくは成人看護学援助論Ⅰ～Ⅴ、臨床看護学総論の中で学習します。2年生・3年生の成人看護学実習の際は、本テキストを活用し理解を深めてください。<br>*レポートやグループワークは、パソコン使用にて提出すること。レポートは「当校におけるレポートの様式」に従うこと。文献やインターネットなど様々な情報源(信頼できるもの)を活用し、上手にまとめてください。ただし、文献・インターネットの写しは認めません。レポートをまとめる力、プレゼン力を養うことは、今後の学習や看護実践の大きな力となります。<br>*『国家試験の出題基準』もチェックし、学習キーワードを確認して下さい。キーワードを中心に主体的に学習をしてください。<br>*予習として、テキストの該当ページを読んだうえで参加してください。 |                        |  |  |
| ◆使用テキスト<br>①系統看護学講座 専門5 成人看護学〔1〕成人看護学総論 ②国民衛生の動向 2019/2020(後日配布)   |                        |  |  |
| ◆参考文献 講義の際に紹介します。  |                        |  |  |
| ◆成績評価の方法 ペーパー試験 90点、レポート課題およびグループワークへの取り組み 10点、合わせて100点とし60点以上をもって単位認定とする。   |                        |  |  |

# シラバス

| 科目分類  | 専門分野Ⅱ                              | 開講年次・時期  | 1年次 10月～2月           |   |          |  |
|---|------------------------------------|--|----------------------|---|----------|--|
| 科目名   | 成人看護学援助論Ⅰ<br>呼吸、循環、体液調節機能障害をもつ人の看護 | 単位数  | 1単位                  | 時間数   | 30時限     |  |
| 担当講師  | 認定看護師・専任教員                         | 講義時限   | 28時限                 | 試験時間・配点   | 2時限 100点 |  |
| ◆学習目標   |                                    |  |                      |   |          |  |
| 1. 呼吸、循環、体液調節機能障害をもつ人の症状・障害のアセスメント、検査・治療・処置とその看護が理解できる。<br>2. 呼吸、循環、体液調節機能障害をもつ人の病期や機能障害に応じた看護が理解できる。 |                                    |  |                      |   |          |  |
|   | 回                                  | 授業内容   | 授業方法                 | 学習課題  |          |  |
| 授業計画  | 1                                  | <b>I. 呼吸器系</b><br>1. 疾患の理解と各期における看護<br>急性期、回復期、慢性期、終末期   | 講義・一部討議              | 事前課題なし  |          |  |
|   | 2                                  | 2. 症状に対する看護<br>・ 咳嗽・喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難   | 講義・一部討議              | 事前課題なし  |          |  |
|   | 3                                  | 3. 検査を受ける患者の看護<br>内視鏡検査、肺組織の生検<br>4. 治療・処置を受ける患者の看護<br>吸入療法、酸素療法、人工呼吸器、気管切開、胸腔ドレナージ、手術を受ける患者の看護  |                      |   |          |  |
|   | 4                                  | 5. 疾患をもつ患者の看護<br>・ 肺炎、結核、気管支喘息、肺血栓塞栓症、急性呼吸窮迫症候群、睡眠時無呼吸患者、肺がん、自然気胸  | 講義・一部討議              | 事前課題なし  |          |  |
|   | 5                                  | 6. 慢性閉そく性肺疾患患者の看護<br>看護過程：慢性閉塞性肺疾患患者で酸素吸入を受ける患者の日常生活援助   | 講義・一部討議              | 事前課題なし  |          |  |
|   | 6                                  | <b>II. 循環器系</b><br>●講義のガイダンス<br>1. 循環機能障害をもつ患者の特徴と看護師の役割<br>2. 循環機能障害をもつ患者における経過別看護の特徴<br>3. 循環機能障害の観察とアセスメントの基本<br>1) 循環機能障害のアセスメント<br>2) 心身・日常生活への影響(急性期・慢性期)  | 講義<br>P・P使用<br>ペアワーク | テキスト該当ページ読<br>基礎看護技術Ⅳフィジカ<br>ルアセスメントの1・2回目<br>の講義を復習しておく。<br>「胸が苦しい」と受診してき<br>た50歳の男性をアセスマ<br>ントするための事前学習 |          |  |
|   |                                    | 7回目～11回目までの共通授業内容<br>▶ 症状、障害の程度と生命・生活への影響のアセスメント<br>▶ 症状、障害によってもたらされる身体症状の改善に向けた援助<br>▶ 生命の危機状態に対する治療・処置時の援助、検査時の援助<br>▶ 合併症の早期発見と早期対処<br>▶ 心身の安静に向けた日常生活と心機能の予備能力に応じた活動への援助<br>▶ 症状悪化予防に向けた自己管理と社会復帰に向けた援助<br>▶ 危機的状況や不安に対する心理的援助<br>▶ 手術を受ける患者の看護：術前のアセスメント、術後合併症の早期発見と予防、手術に伴う苦痛の緩和、セルフケア習得に向けた援助 |                      |   |          |  |
|   | 7                                  | 4. 病期や機能障害に応じた看護<br>1) 心不全患者の看護<br>心不全のおさらい、急性増悪から回復期・慢性期における看護  | 講義、P・P使用             | テキスト該当ページを読み講義に参加する。  |          |  |
|   | 8                                  | 2) 虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)患者の看護(1)<br>虚血性心疾患の病態のおさらい、狭心症患者の看護   | 講義、P・P使用             | テキスト該当ページを読み講義に参加する。  |          |  |
|   | 9                                  | 2) 虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症)患者の看護(2)<br>急性心筋梗塞の病態のおさらい、急性期・回復期の看護   | 講義、P・P使用<br>ペアワーク    | テキスト該当ページを読み講義に参加する。国家試験問題への取り組み  |          |  |

|    |   |                   |                                      |
|----|---|-------------------|--------------------------------------|
| 10 | 3) 弁膜症患者の看護<br>弁膜症について 基礎知識おさらい<br>4) 手術を受ける患者の看護<br>心臓血管外科手術、弁置換術、冠動脈バイパス術                   | 講義、P・P使用<br>ペアワーク | テキスト該当ページを読み講義に参加する。<br>国家試験問題への取り組み |
| 11 | 5) 不整脈患者の看護<br>心電図モニター、不整脈の原因と分類、不整脈の危険度の判断<br>ペースメーカーを装着した患者の看護<br>6) 閉塞性動脈硬化症(動脈閉塞性疾患)患者の看護 | 講義、P・P使用          | テキスト該当ページを読み講義に参加する。                 |
| 12 | <b>Ⅲ. 腎・泌尿器系</b><br>1. 症状・障がいのアセスメント<br>体液量・電解質調整機能障害…脱水<br>蓄尿・排尿障害…尿失禁                       | 講義、P・P使用          | テキスト該当ページを読み講義に参加する。                 |
| 13 | 2. 検査と看護  | 講義、P・P使用          | テキスト該当ページを読み講義に参加する。                 |
| 14 | 3. 治療・処置と看護<br>4. 病期や機能障害の応じた看護<br>急性腎不全、慢性腎不全・慢性腎臓病、腎移植<br>腎・膀胱の外科的治療の看護                     |                   |                                      |
| 15 | 全単元終了後試験  |                   |                                      |

◆教科書

内容Ⅰ. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器 (医学書院)  
 内容Ⅱ. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 (医学書院)  
 内容Ⅲ. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 (医学書院)

◆参考文献

看護過程に沿った病態生理と看護のポイント 対症看護 学研  
 他適宜提示

◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。

# シラバス

|      |   |         |            |         |          |
|------|---|---------|------------|---------|----------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ   | 開講年次・時期 | 1年次 10月～2月 |         |          |
| 科目名  | 成人看護学援助論Ⅱ<br><small>消化・吸収、栄養・代謝、運動機能障害をもつ人の看護</small> | 単位数     | 1単位        | 時間数     | 30時限     |
| 担当講師 | 認定看護師・専任教員  | 講義時限    | 28時限       | 試験時間・配点 | 2時限 100点 |

◆学習目標

1. 消化・吸収、栄養・代謝、運動機能障害をもつ人の症状・障害のアセスメント、検査・治療・処置とその看護が理解できる。
2. 消化・吸収、栄養・代謝、運動機能障害をもつ人の病期や機能障害に応じた看護が理解できる

|      | 回           | 授業内容  | 授業方法                          | 学習課題   |
|------|-------------|---|-------------------------------|--|
| 授業計画 | 1           | <b>I. 消化器(食道・胃・大腸)</b><br>1. 食道疾患患者の看護<br>1) 食道がんの看護  | 講義、P・P使用                      |  |
|      | 2           | 2. 胃・十二指腸疾患患者の看護<br>1) 胃・十二指腸潰瘍患者<br>2) 胃がん患者   | 講義、P・P使用                      |  |
|      | 3<br>・<br>4 | 3. 炎症性疾患患者の看護<br>1) 潰瘍性大腸炎患者<br>2) クロウン病患者  | 講義、P・P使用                      |  |
|      | 5<br>・<br>6 | 4. 大腸がん患者の看護<br>1) 結腸がん・直腸がん患者  | 講義、P・P使用                      |  |
|      | 7<br>・<br>8 | <b>II. 消化器(肝・胆・膵)</b><br>1. 主要症状と看護<br>腹痛、腹水、浮腫、黄疸、肝性脳症   | 課題学習GW<br>講義、P・P使用<br>グループワーク | 各症状の病態生理は、復習・予習用教材も使用し事前学習すること。  |
|      | 9           | 2. 疾患をもつ患者の看護<br>3) 肝炎 ①急性期 ②慢性期<br>4) 肝硬変 ①代償期 ②非代償期<br>肝生検、食道静脈瘤硬化療法(EIS)、腹水穿刺(CART)  | 講義、P・P使用                      | 病態生理、各検査・治療・処置について復習しておく。  |
|      | 10          | 5) 胆石・胆嚢炎…ERCP<br>6) 胆嚢癌…PTCD<br>7) 膵炎  | 講義、P・P使用                      | 病態生理、各検査・治療・処置について復習しておく。  |
|      | 11          | 8) 肝癌・膵癌…肝動脈塞栓症<br>9) 肝・膵切除を受ける患者の看護  | 講義、P・P使用                      | 病態生理、各検査・治療・処置について復習しておく。  |
|      | 12          | <b>III. 運動器系</b><br>1. 運動機能障害のある患者の看護を学ぶにあたって<br>1) 運動器疾患医療・看護の目標<br>2) 患者の特徴と看護の役割<br>3) 援助のための主な知識と技術<br><br>2. 症状とその看護<br>神経麻痺、循環障害とフォルクマン拘縮、出血、感染、深部静脈血栓症<br><br>3. 検査・処置を受ける患者の看護<br>1) 関節可動域(ROM)検査<br>2) 徒手筋力テスト(MMT)<br>3) 筋生検<br>4) 脊髄造影、椎間板造影検査<br>5) 膝関節鏡検査・膝関節液検査 | 講義、P・P使用                      | 事前学習課題を12月に提出しますので、学習した上で参加してもらいます。<br>課題は1/21朝に提出、講義開始前に返却します。<br>課題で解らない点などがあれば、課題に記載しても良いし、質問しても良い。<br>解答をふまえながら講義をできるようにと考えています。 |

|  |  |          |  |
|--|--|----------|--|
| 13   | <p>4. 保存療法を受ける患者の看護<br/>ギプス・副子固定、牽引法</p> <p>5. 手術を受ける患者の看護</p> <p>1) 手術前の看護</p> <p>2) 手術後の看護(体験学習:間欠的空気圧迫法)</p> <p>6. 経過に応じた患者の看護～脊髄損傷患者の看護を通して</p> <p>1) 急性期患者の看護</p> <p>2) 回復期患者の看護</p> <p>3) 慢性期患者の看護</p> | 講義、P・P使用 |  |
| 14   | <p>7. 疾患別看護</p> <p>1) 四肢切断術を受ける患者の看護<br/>術後管理</p> <p>2) 椎間板ヘルニア患者の看護<br/>安静療法、生活指導</p> <p>3) 関節リウマチ患者の看護<br/>人工関節置換術・ポジショニングの援助</p>  | 講義、P・P使用 |  |
| <p>◆教科書<br/>内容Ⅰ・Ⅱ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 (医学書院)<br/>内容Ⅲ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器 (医学書院)</p> |  |          |  |
| <p>◆参考文献<br/>看護過程に沿った病態生理と看護のポイント 対症看護 学研<br/>他適宜提示</p>  |  |          |  |
| <p>◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。</p>  |  |          |  |

## シラバス

|      |  |         |           |         |          |
|------|--|---------|-----------|---------|----------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ  | 開講年次・時期 | 2年次 4月～8月 |         |          |
| 科目名  | 成人看護学援助論Ⅲ<br>内部環境調節、生体防御、性・生殖機能(女性)<br>障害をもつ人の看護 | 単位数     | 1単位       | 時間数     | 30時限     |
| 担当講師 | 認定看護師・専任教員                                       | 講義時限    | 28時限      | 試験時間・配点 | 2時限 100点 |

### ◆学習目

1. 内部環境調整、生体防御機能、性・生殖機能(女性)障害をもつ人の症状・障害のアセスメント、検査・治療・処置とその看護が理解できる。
2. 内部環境調整、生体防御機能、性・生殖機能(女性)障害をもつ人の病期や機能障害に応じた看護が理解できる。

|             | 回 | 授業内容  | 授業方法  | 学習課題  |
|-------------|---|---|---|---|
| 業<br>計<br>画 | 1 | I. 内分泌・代謝系<br>1. 医療の動向と看護<br>2. 内分泌疾患・代謝疾患患者の特徴と看護の役割<br>3. 症状・障害のアセスメントと看護<br>代謝機能障害、血糖調節機能障害、甲状腺機能障害<br>副腎機能障害、下垂体機能障害、高血糖、低血糖、肥満<br>体重減少、口渇、多飲、多尿、動悸<br>4. 糖尿病について<br>1) 糖尿病の概要 2) 糖尿病の分類 3) 糖尿病の診断<br>4) 糖尿病の慢性合併症（糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病<br>神経障害、糖尿病足病変、大血管障害）<br>5) 糖尿病の急性合併症 | ・講義形式（90分）<br>テキストとPP使用<br>（PPの内容配布）<br>・1年次の履修科目である「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」の既習知識を起させ、関連づけて理解を深められるようにしていく。                    | ・慢性疾患である内分泌・代謝疾患の患者を取り巻く医療・社会の状況を知る。<br>・患者の特徴を身体的側面、心理社会的側面から捉え、看護援助の視点を学ぶ。<br>・糖尿病のみられる主要症状と看護が理解できる。<br>・糖尿病の慢性合併症と急性合併症を学び、対象理解に繋げることができる。  |
|             | 2 | 5. 検査と看護<br>血糖日内変動、糖負荷試験、内分泌負荷試験、糖尿病の診断・治療に関連した検査、ホルモン血中・尿中濃度測定、<br>ホルモン負荷試験<br>※簡易血糖測定・血糖自己測定(SMBG)  | ・講義形式（20分）<br>テキストとPP使用<br>（PPの内容配布）<br>※演習（70分）<br>最初の10分は血糖測定器の紹介を行う。<br>6グループに分かれて血糖自己測定を体験。演習後に実際に経験してみたいの感想や看護の視点をグループで発表。 | ・内分泌疾患・代謝疾患の診断に必要な検査、検査の特徴・適応が理解できる。<br>・検査時の注意点・看護の視点が理解できる。<br>・血糖自己測定の援助方法が理解できる。  |
|             | 3 | 6. 治療・処置と看護<br>1) 食事療法 2) 運動療法 3) 薬物療法（経口糖尿病薬、<br>インスリン補充療法） 4) ホルモン療法  | ・講義形式（90分）<br>テキストとPP使用<br>（PPの内容配布）  | ・糖尿病の治療、（薬物療法・食事療法・運動療法）を学び、看護の視点が理解できる。  |
|             | 4 | 7. 病期や機能障害に応じた看護<br>1) 糖尿病（1型・2型）<br>① 原因と障害の程度、生命・生活への影響のアセスメント<br>（疾患の特徴、高・低血糖症状、急性・慢性合併症など）<br>② 症状、障害によって生じた身体症状の緩和に向けた援助<br>③ 食事療法・薬物療法・運動療法に関する援助<br>④ 合併症予防に対する援助<br>⑤ 疾患を受け止め、自己管理を継続していくための援助<br>⑥ 自己管理に向けた患者・家族への教育的アプローチ   | ・事例検討<br>・講義形式（90分）<br>テキストとPP使用<br>（PPの内容配布）   | ・糖尿病の概要、患者の持つ身体的特徴、心理、社会的特徴について考えアセスメント・看護目標の立案・看護活動という具体的な看護過程の展開を学ぶ。<br>・患者の主観的データ、及び検査をはじめとする客観的データから、患者に何が起きているのかアセスメントし、必要な看護援助を考えることができる。 |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 5   | <p>2) 甲状腺疾患 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症) 腫瘍 (甲状腺がん、下垂体腫瘍)</p> <p>① 症状と生活への影響のアセスメント</p> <p>② 苦痛・症状緩和への援助</p> <p>③ 患者・家族への教育的アプローチ</p> <p>④ 心理面への援助</p> <p>⑤ 甲状腺切除・下垂体の手術を受ける患者への看護</p> <p>3) 高尿酸血症・脂質異常症・肥満</p> <p>① 症状と生活への影響のアセスメント</p> <p>② 苦痛・症状緩和への援助</p> <p>4) 自己管理に向けた患者・家族への教育的アプローチ</p> | <p>・講義形式 (90分)</p> <p>テキストとPP使用 (PPの内容配布)</p> | <p>・内分泌・代謝疾患における経過別の看護、急性期・慢性期の看護と継続看護について学ぶ。</p> <p>・生活習慣との関わりが深い疾患を持つ患者に、どのような看護援助ができるのかを学ぶ。</p> |
| 6   | <p>II. 血液・造血器系、免疫系</p> <p>1. 血液・造血器疾患の特徴と看護の役割</p> <p>2. 造血の仕組み</p> <p>3. 血液疾患の症状と看護(貧血・出血傾向・リンパ節腫大・発熱)</p> <p>4. 検査と看護(骨髄穿刺・血液検査)</p>  | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 |  |
| 7   | <p>5. 輸血療法</p> <p>6. 白血病の看護<br/>化学療法</p>  | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 |  |
| 8   | <p>7. 造血幹細胞移植術を受ける患者の看護<br/>クリーンルームの管理、放射線療法</p>  | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 |  |
| 9   | <p>8. GVHD(急性・慢性)<br/>免疫学的検査、血漿交換療法</p>   | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 |  |
| 10  | <p>9. 関節リウマチとSLE<br/>薬物療法</p>   | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 |  |
| 11  | <p>III. 女性生殖器系</p> <p>1. 患者の特徴</p> <p>1) 女性生殖器疾患患者の理解</p> <p>2) 発達過程における女性生殖器の発達と疾患 3) 看護の役割</p> <p>2. 女性生殖器疾患(良性疾患)をもつ人の看護</p> <p>1) 子宮筋腫 2) 子宮内膜症</p> <p>3) 良性の卵巣腫瘍(特徴、症状と看護、診断・検査時の看護、治療と看護) 4) 症状と看護(ショック状態の看護、性器出血患者の看護) 5) ホルモン欠落症状と看護</p>  | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 | <p>レポート提出<br/>社会環境・情勢について考える</p>   |
| 12  | <p>3. 女性生殖器の腫瘍をもつ人の看護</p> <p>1) 子宮体がん 2) 子宮頸がん</p> <p>3) 卵巣がん(特徴、症状と看護、診断・検査時の看護、治療と看護)</p>   | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 | <p>子宮体がん・頸がん、卵巣がんの復習をしておく</p>  |
| 13  | <p>4. 乳腺腫瘍に関して</p> <p>1) 女性のライフサイクル 2) 乳房の手術を受ける患者の看護</p> <p>3) がん診断の心理反応 4) ボディイメージのケア 5) 補正下着・パット 6) 手術後の看護</p>   | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 | <p>乳がん手術を受ける患者の看護を理解できる。</p>   |
| 14  | <p>7) リハビリテーション 8) リンパ浮腫 9) 事例検討</p>  | <p>・講義形式</p> <p>テキストとPP使用</p>                 | <p>事例を通して乳がん患者の看護を理解できる。</p>   |
| 15  | 筆記試験  |   |  |
| <p>◆教科書</p> <p>内容Ⅰ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 (医学書院)</p> <p>内容Ⅱ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 (医学書院)</p> <p>内容Ⅲ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器 (医学書院)</p> |   |   |  |
| <p>◆参考文献</p> <p>講義中に紹介</p>  |   |   |  |
| <p>◆成績評価の方法 筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。</p>   |   |   |  |

## シラバス

|      |                                 |         |            |         |          |
|------|---------------------------------|---------|------------|---------|----------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ                           | 開講年次・時期 | 2年次 9月～12月 |         |          |
| 科目名  | 成人看護学援助論Ⅳ<br>脳・神経、感覚機能障害をもつ人の看護 | 単位数     | 1単位        | 時間数     | 30時限     |
| 担当講師 | 看護師                             | 講義時限    | 28時限       | 試験時間・配点 | 2時限 100点 |

◆学習目標

1. 脳・神経系、感覚機能障害をもつ人の症状・障害のアセスメント、検査・治療・処置とその看護が理解できる。
2. 脳・神経系、感覚機能障害をもつ人の病期や機能障害に応じた看護が理解できる。

|                  | 回        | 授業内容  | 授業方法              | 学習課題  |
|------------------|----------|---|-------------------|---|
| 授<br>業<br>計<br>画 | 1<br>6   | I. 脳・神経系…脳血管系障害:くも膜下出血・脳内出血・脳梗塞<br>1. 病態・症状のメカニズムと看護<br>意識障害、運動機能障害、失語症、失認、感覚機能障害、嚥下障害、排泄障害、けいれん、頭蓋内圧亢進症状<br>2. 検査時の看護<br>髄液検査、脳血管造影、脳波検査、筋電図検査、神経・反射検査<br>3. 治療・処置における看護<br>脳室ドレナージ、薬物療法、手術療法、機能訓練 | 講義形式<br>テキストとPP使用 | ・脳神経疾患の特徴、及び問題点を踏まえたうえで、身体的、心理・社会的援助を理解する。<br>・事例を通して、手術療法、薬物療法や生活指導の重要性などのつながりを理解する。 |
|                  | 7        | 4. リハビリテーション時の看護  | 講義形式<br>テキストとPP使用 |   |
|                  | 8        | 5. 筋委縮性側索硬化症の看護<br>1) 病態・症状のメカニズムと看護<br>2) 治療・処置における看護(薬物療法、機能訓練)   | 講義形式<br>テキストとPP使用 |   |
|                  | 9<br>10  | II. 平衡感覚器系…メニエール病、真珠腫性中耳炎、喉頭がん<br>1. 病態の症状のメカニズムと看護<br>眩暈、難聴、耳鳴<br>2. 平衡感覚器系の検査と看護<br>聴力検査、平衡感覚検査<br>3. 鼓膜形成術、喉頭全摘術を受ける患者の看護  | 講義形式<br>テキストとPP使用 | ・事例を通して、手術療法や自己管理のための社会資源の活用などのつながりを理解する。   |
|                  | 11<br>12 | III. 視覚器系…緑内障<br>1. 主症状と看護<br>眼痛、視力、失明、視野狭窄、羞明<br>2. 検査と看護<br>視力測定、視野測定、眼底検査、眼圧検査<br>3. 角膜移植を受ける患者の看護   | 講義形式<br>テキストとPP使用 | ・事例を通して、眼疾患によって起こる様々な問題に対する援助の方法を理解する。  |
|                  | 13<br>14 | IV. 触覚器系…アトピー性皮膚炎、熱傷<br>1. アトピー性皮膚炎の薬物(外用)療法と看護<br>2. 熱傷患者の治療と看護<br>循環管理、手術療法   | 講義形式<br>テキストとPP使用 | ・事例を通して、皮膚疾患患者の援助の方法を理解する。  |
|                  | 15       | 筆記試験  |                   |   |

◆教科書

|     |         |       |           |      |        |
|-----|---------|-------|-----------|------|--------|
| 内容Ⅰ | 系統看護学講座 | 専門分野Ⅱ | 成人看護学〔7〕  | 脳・神経 | (医学書院) |
| 内容Ⅱ | 系統看護学講座 | 専門分野Ⅱ | 成人看護学〔14〕 | 耳鼻咽喉 | (医学書院) |
| 内容Ⅲ | 系統看護学講座 | 専門分野Ⅱ | 成人看護学〔13〕 | 眼    | (医学書院) |
| 内容Ⅳ | 系統看護学講座 | 専門分野Ⅱ | 成人看護学〔12〕 | 皮膚   | (医学書院) |

◆参考文献

根拠がわかる成人看護技術(メヂカルフレンド社)

◆成績評価の方法

筆記試験、課題の取り組み、授業態度を含めて総合的に評価をする。

|      |                           |         |            |         |           |
|------|---------------------------|---------|------------|---------|-----------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ                     | 開講年次・時期 | 2年次 12月～3月 |         |           |
| 科目名  | 成人看護学援助論Ⅴ<br>～成人の看護過程の展開～ | 単位数     | 1単位        | 時間数     | 15時限      |
| 担当教員 | 専任教員                      | 講義時間    | 14時限       | 試験時間・配点 | 1時限 70点満点 |

◆目的

成人期にある対象の事例をもとに、既習の知識を統合させながら、健康レベル・経過に応じた看護過程の展開を学ぶ。

◆目標

1. 看護を実践する為に必要な学習ポイントに注目し、実際に学習を深めることができる。
2. 各事例の病理的状態や行われている治療、処置、検査とその看護を関連付けて理解できる。
3. 周手術期、慢性期、終末期にある患者の状態に応じた看護過程の展開が事例を通して理解できる。
4. 周手術期、慢性期、終末期患者とその家族に起こりやすい健康問題と看護の特徴が理解できる。
5. クリティカルシンキングの実際を学ぶ。

| 回                | 授業内容  | 授業方法                      | 課題・備考   |
|------------------|---|---------------------------|---|
| 第1回              | 1. 成人看護学援助論Ⅴの概要説明<br>2. 事例紹介と課題提示<br>1)「直腸切断術を受けた患者の看護事例」<br><br>成人看護学総論p182～p201、p275～p317を一読したうえで参加する。                                | 講義<br>ビデオ視聴<br>個人で課題の取り組み | 1)～3)の3事例それぞれについて、看護過程の展開に向けて必要な学習を行う。学習内容は別プリントを参考テキストの書き写しに終わらず、事例の看護を考え、実践するために必要な学習をする。<br><br>◆A-4 ホチキス留め、一番上に表紙をつける。事例ごとにindexをつける。3事例まとめて1冊にして提出する。<br>◆ホチキスでおさまりきらない場合は、実習fileで提出可<br><b>提出期限： / ( ) 8 : 40</b> |
| 第2回              | 事例紹介と課題提示<br>2)「糖尿病教育入院患者の看護事例」<br>3)「肺癌のターミナル期にある患者の看護事例」<br><br>成人看護学総論について下記の該当ページを一読したうえで参加する。<br>2)p206～p219、p258～p272 3)p238～p254 | 講義<br>ビデオ視聴<br>個人で課題の取り組み | ◆グループごとに1号用紙～解決策まで提出する。<br><b>提出期限： / ( ) 8 : 40</b><br>* 書式体裁が整っていない場合は、即返却する。   |
| 授<br>業<br>計<br>画 | 第3回<br>3. グループワークの説明<br>4. グループワークの取り組み(1)<br>看護計画の立案   | 講義<br>グループワーク             | ◆発表に向けての準備(資料作成、P・Pなど)  |
| 第4回              | 4. グループワークの取り組み(2)<br>看護計画の立案<br>発表準備   | グループワーク                   | ◆各グループの資料に全て目を通したうえで参加する。<br>◆発表日やタイムスケジュール詳細は後日伝える。<br>◆発表グループは、効果的なプレゼンテーションを考える。<br>◆グループワークの結果や発表の他者評価、最終的な学びに対するレポートあり。<br><br>* 結果発表の日は変更もあります。   |
| 第5回              | 5. グループワーク結果発表(1)   | 発表と質疑応答<br>教員より講評         |   |
| 第6回<br>第7回       | 5. グループワーク結果発表(2)(3)  | 発表と質疑応答<br>教員より講評         |   |

◆**該当テキスト** \*授業計画を参照し、必要と思われるテキスト、文献を各自用意して下さい。

系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院  
 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器、成人看護学〔5〕 消化器、成人看護学〔6〕 内分泌・代謝  
 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論  
 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 医学書院  
 系統看護学講座 別巻 緩和ケア  
 系統看護学講座 別巻 がん看護学  
 臨床看護学叢書2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社  
 看護過程に沿った病態生理と看護のポイント 対症看護 学研 …他いろいろ  
 周手術期看護 安全・安楽な看護の実践 インターメディカ

◆**使用教材 (DVD)**

- ①看護のためのアセスメント事例集 vol. 4 直腸切断術を受けた患者の看護事例
- ②看護のためのアセスメント事例集 vol. 3 糖尿病教育入院患者の看護事例
- ③看護のためのアセスメント事例集 vol. 12 肺癌のターミナル期にある患者の看護事例

◆**参考文献**

- ①日総研 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門
  - ②医歯薬出版 健康行動理論の基礎、実践編
  - ③MC メディカ出版 改訂2版 糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力
  - ④建帛社 TACS シリーズ 成人看護学—慢性期、急性期、終末期
  - ⑤日本看護協会出版 ナースによるナースのための がん患者のペインマネジメント
  - ⑥照林社 パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護学実習ガイドⅠ(急性期・周手術期)、Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)
  - ⑦中央法規 新看護観察のキーポイントシリーズ 急性期・周手術期(Ⅰ・Ⅱ)、がん看護・緩和ケア
  - ⑧ナツメ社 ナースのためのやさしくわかる手術看護
- その他色々あります。3年次の実習も視野に入れて、様々な文献を活用し経過別看護の理解を深めてください。

◆**担当教員よりひとこと**

本科目では、成人期にある人の病期の経過や状態に応じた看護過程の展開について理解を深めます。看護過程は、目に見えない「思考」を意識的に働かせることが大切で、単に受身の講義で身につくものではありません。そのため、講義時間外の課題も多く、グループワーク、発表など様々な形態で講義をすすめていきます。本科目は、解剖生理学、病理学、薬理学、治療論、疾病と治療、基礎看護後術、看護過程、成人看護学、健康教育技法、看護理論など、これまでの机上の学習を関連づけ統合させていく必要があります。また、これまで実習や講義で培った論理的・科学的思考が土台となります。この科目を主体的に取り組むことで、3年生の成人看護学実習へと発展させていくことが期待できます。グループワークの結果発表では、活発な意見交換によって様々な考えに触れ、経過別看護の理解が深まることを期待しています。

個人課題に関して、インターネットや文献のコピーは認めません。(図や表のコピーは可) 明らかに学生間で写しあつたと判断したものは、課題への取り組みとして減点とします。グループで提出したものに不正行為が認められた場合は、グループ全員を同様の評価とします。

◆**成績評価の方法**

筆記試験 70%

課題への取り組み 30%: 個人・グループでの提出物の内容

発表時の効果的なプレゼンテーション

態度(個人の取り組み姿勢、発表の参加姿勢)